

第5回 水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 議事概要

1. 開催日時及び開催場所

日時：平成26年11月17日（月）16:00～18:00

場所：MIRROR ビル5F Gocai（ゴカイ）

2. 出席コメンテーター

- ・別紙の通り

3. 議事の内容

(1) 国土交通省取組状況報告

- ・河川環境課より、前回2月の第4回懇談会から本懇談会までの8ヶ月間の国土交通省の取組みについて報告が行われた。

〇〇：・国交省の取組もどんどん全国展開されているという話だった。また、紹介頂いた雑誌「Tokyo River Story」については、内容・価格ともに衝撃を受けた。多摩の奥から東京湾までと範囲が広くテリトリーを扱っている。また歴史的なイマジネーション、自然環境の大きさ・雄大さ、人間のアクティビティについて扱っている。食文化が取り入れられていることに感動した。

(2) ミズベリング事務局取組状況報告

- ・ミズベリング事務局より、前回2月の第4回懇談会から本懇談会までの8ヶ月間のミズベリング事務局の取組みについて報告が行われた。

〇〇：・話を聞くと元気になる。未来が開ける。オシャレにやらなければいけないということのでつった手ぬぐいがよい。伝統と現代がピタリとあっている。また、外からの目が元気づけてくれるという点で、ポートランドの人たちが来てくれることは最高である。日本の過去と現代が繋がったよさが発信されることは世界の人にとって興味深いと思う。

- ・10年くらい前までは、日本の川をめぐる動きは自然系が多かった気がする。ここに来て、都市の真ん中の母なる川でオープンカフェや雁木タクシーなどがでてきて、規制緩和が成功している。また、舟運や様々なイベントが水辺を舞台に行われている。全国でそれがさらに展開しつつあり、ミズベリングが追い風にしていることが分かってきた。

〇〇：・都市は海に近いイメージがあり、そのため、川も海に近い川というイメージがあった。会議の際に上流という概念が出ていたが、上流との連携についてお話を聞かせ

て頂きたい。

- 〇〇：・上流～中流～下流そして海までというのは非常に重要なコンセプトである。東京はそれをやるのに非常によい都市の1つだが、そのような動きはいかがか。
- 〇〇：・特に狩野川の会議では、狩野川は上流、中流、下流で違う文化を持っており、それが連携して上手くやっていくことが、地域全体の活力につながるので取り組んでいきたいとの意見があった。今後の会議の中でも、そのような視点も含めて紹介できればと思う。
- 〇〇：・ヨーロッパなど海外では国土全体に出来た運河や川に今でも船が行き交っている。ハンブルクは相当内部の港町だが、取引量はヨーロッパでも2位か3位である。日本は内部の川を捨ててしまったというか。各都市では行われているが、それを繋ぐということがもっとできると思う。
- 〇〇：・今日は、水辺の利用者という立場で来ている。できれば最後の方で具体的話を持ち帰りたい。地域再生の水辺空間の創造事業について、対象者など説明してほしい。
- 〇〇：・我々の河川事業の仕事のなかで、かわまちづくり支援事業というものがある。これは地元の地方公共団体からの申請のみの対象となっている。これまでの視点をみていくと、色々な企業の方にも動きがある。地方公共団体だけでなく、民間企業の発意に対して、河川管理者として環境整備ができないかという考えがある。地方公共団体だけでなく、民間企業からの取り組みに対しても支援できる制度を作っていきたいという思いがある。

(3) 注目事例等の紹介

- ・ 7名のコメンテーターより、ミズベリングに関連する注目事例等の紹介が行われた。
- 〇〇：・この2、3年、海外に色々行って思うところがある。行けば行くほど、「ほとんどすべて、水辺空間、ウォーターフロントの再生、産業・経済構造の変化、時代の必然性を日本は捉えていない」と感じる。
 - ・ 日本ではオリンピックがあり、水辺も話題にはなるが、はっきり言うと競技場の話ばかり。バイエリア、川沿い、日本橋川に対するアイデアは全然出てこない。政策的にも。ストラテジーがない。論じようとする機運が育ってない。アメリカ、他の国を周るとそこそが都市づくりのウエイトをかける場所であると確信犯的に行っている。
 - ・ ウォーターフロントの再生は産業経済構造の未来への変化を引き出す。時代の必然性の捉え方が日本は出来ていない。
 - ・ 港湾の物流工業が文化創造、観光コンベンションに役立っていることを体験してきた。
 - ・ あまり紹介されていないが、この夏感動したのはオスロ。2つおもしろい空間ができています。人が本当に集まる水辺の広場ができています。一つは、ノルウェーの建築事務所によるオペラハウスで、フィヨルドのイメージをした大理石を用いた象徴

建築、もう一つは、レンゾ・ピアノ設計の現代美術館の複合建築だが、木を多用した柔らかい造りで、オペラハウスとはコントラストが効いている。まちづくりがよいスケールで行われている。

- ・ ニューヨーク、最初から物流基地で造られている場所はピアードラけであったが70年代に不要となり、大きい倉庫などが空になっていた。そこが現代アート、クリエイティブインダストリーの中心となっている。
- ・ ブルックリンの先のレッドフックは治安の悪い場所だったが、イケアや市場が出来たりして、そこに船で行くようになっていく。
- ・ ボストンはこんな地形（スライド資料）だったのに、どんどん埋め立て、ピアードをどんどん出した。市が水辺の開発をマネジメントしている。
- ・ 外国を褒めているだけでなく、実はアメリカは水辺を使う文化はなかった。今、初めて人間がそれを手にして、喜んでやっている。日本には歴史がある。名所、漁村、神社、遊郭があり、だから色気といかがわしさがある。過去の歴史があるので、想像力を持って、イニシアチブを働かせることで日本らしい、ミズベリングに相応しいものが出来ると思う。

〇〇：・ **TOKYO RIVER GLAMPING**（トウキョウ リバー グランピング）について紹介したい。極小プロジェクトで、お金も人もないが、自分に何が出来るか、ということを考えてやったことである。

- ・ これから東京は世界中から人が集まる場所であるため、漢字でない表記にしている。
- ・ オリンピックに向け、隅田川から湾岸にかけて、1つのメインになるはずだが、まだなっていない。そのため、自分達で出来ることをしている。
- ・ グランピングはグラマラスなキャンピング、豪華なラグジュアリーなキャンピングということだが、もともとは過酷な環境でどうやったら快適に過ごせるかということから生まれたと思うが、東京の川で行ったらどうなるかということで開催した。
- ・ 場所は日本橋の浜町の防災船着き場とその遊歩道側を使っている。
- ・ 主催者は日本橋の町会をまとめている方が中心となった。（日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会）。
- ・ 1日目は中央区の公式イベントだったが、2日目は日本橋水辺実行チーム「ハッシュボート」という任意団体を作り実行した。防災船着場を、登録もしていない任意団体が使用したのは初めての事例だと思う。
- ・ 東京都建設局河川部に相談したところ協力してもらえる手応えがあり、中央区、ルネッサンス委員会との調整が始まり、公園協会や民間の方にも協力していただいた。
- ・ この写真（テントで赤いシートの上で女性がくつろいでいる写真）を撮りたくてグランピングを行ったと言っても過言ではないが、川辺は色っぽい場所でないとい

けないという陣内先生の言葉から、艶っぽいことをしてみようという想いで行った。

- ・低予算で、ボランティアで手伝ってもらいながら実施した。
- ・最終日はリパークルージングを行った。ラジコンヘリを使って映像を作成したので紹介する。今回のクルーズは東京のオリンピック会場を見るというコンセプトで行ったが、楽しい時間をすごせた。

- 〇〇：・前回の会議以降行ったこととして、何処に何があるのか、実感として感じなければアイデアも何も生まれない、ということで、隅田川沿いを月島から浅草まで不動産部門の人間と一緒に歩いてみた。あたりをつけていくつかのビルオーナーとミズベリングの活動や規制緩和について話をした。
- ・また、国土交通省と一緒に、中小ビルの業界団体を訪ねて、現在の状況について説明を行った。
 - ・社内の話としては、全国の各支店に同様の活動を行うように話をした。
 - ・反応として2つあり、(一つめ) 倉庫、物流業界では(グリーンだけではなく周辺との調和も含めた) 環境への配慮について興味を持っており、「そもそもミズベリングなどの活動は知らなかったのでこのような情報は有難い」とのことであった。また、水辺の活用を気にしており、学識経験者を招いて活用方法などについて話合っているとのことだった。ミズベリングのことなど知らずに、それぞれがやっつけてしまっている、ということだと思う。また、飲食店グループからカフェの設置の提案を受けたこともあるとのことだった。面白かったのは、東京オリンピックの話をしていて、周辺エリアの変化を見ながら、中長期的に水辺の活用を考えていきたい、情報を提供してもらえるとありがたいとのことであった。
 - ・(二つめ) 大阪の例で川辺にビルを建てる会社があり話を聞いたところ、水辺にかけて道路を跨ぐ形で象徴的な本社社屋を作りたいため、このような話は大変いいが、ゼネコンからは「こんなの無理だ」「河川管理者・道路管理者の許可が降りるはずがない」とネガティブな話を受けている、とのことであった。これは非常に象徴的で、先ほどの業界団体も全く同じ話を言っていて、「そもそも河川はアンタッチャブル」「何を聞いてもダメといわれると決まっている」「最初からいかない」ということである。
 - ・規制緩和などの話を知らなくて、頭からダメだと決めつけているので、情報を提供する価値はあると思う。ビルオーナーなどにチラシを配るのも良いかもしれない。情報の提供が重要。
 - ・また、ミズベリングのように、国土交通省のスタンスが変わってきているのであれば、是非、伝えるべき。
 - ・水辺の人たちが動かないと何も動かないので、そういう意味では、世論を巻き込んでいけばやりやすいということもあり、現在は感触であるが、いけるのではないかという印象を持っている。

〇〇：・すごくうれしい話。一番そういう分野が大切で、求められていると常々思っていたので。大阪には水辺の物件を扱う不動産の組織があっただいぶ進んでいるが、東京にはない。ただ倉庫街の活用について研究会をやっている友人などもいるので、チラシ配りはよい。国交省も規制緩和を伝えていくことに関してはお願いしたい。

〇〇：・水都大阪パートナーズの今年度の動きをミズベリング大阪会議に絞って紹介する。

- ・大阪会議は、世界とつながる水辺とするアイデアを募る会議とした。
- ・水辺のセッションでは、「アクティビティ」、「シビックプライド」、「ビジネス」、の3つを設定して、活動とそれを支えるしくみや、資金面の話も展開した。
- ・参加者は200名ほどで、ワークショップを行いながら、ゲストパネラーの議論を聞きながら、アイデアを出していくという仕組みで行った。
- ・マーライオンホテルを行ったアーティストの話では、ロシアと日本が一番カタイ（規制が厳しい）との話があった。
- ・陸と水辺をつなげることで舟運も活性化するため、連携したまちづくりが必要である。また、水辺にはビジネスのチャンスがあることなどが具体的な提案と共に共有された。
- ・仕組みづくりを地域毎に作っていくこと、エリアマネジメントの条例を水辺に展開できないかなど、シビックプライドの視点で使いこなしのアイデアを結集して、ネットワークすることの重要性も、今後の水辺のあり方と共に提案された。
- ・ワークショップでは、300以上のアイデアをいただいた。具体的なものが多く現在は、アイデア全てを来年に実現する気持ちで整理している。
- ・中之島 GATE は、もともと人がいない場所であったが、アートイベントと協働して、活動を続けていたところ、維新派（演劇）が「良い場所なので使わせて欲しい」ということで、新たな担い手づくりにつながった。
- ・大阪には誰が首謀者で行っているのかという問い合わせが多数くるため、首謀者（おもろいヤツ）をめぐるスクールをセッションの次の日に行った。
- ・水辺を楽しくするキーマンと川のこと、展開の仕方、課題、未来を共有できるスクールとした。今後行ってほしいとの話があり実行へ向けたい。
- ・全体的に満足度は高かった。大阪の人は半分以下で、大阪以外の方にも多く来ていただいた。今後の展開に対する期待感がアンケートからうかがえた。
- ・来年度は、ミズベリング世界会議ということで、世界の水辺を魅力的にしている人々と交流し、色々な企画と連動させて、全国的なネットワークづくりを進めていきたいと思っている。
- ・イベントでめちゃくちゃ使いこなしている状況を生み出し、大阪では、新しい試みを実現する街だということを表現しながら、お互いの楽しみを共有する仕組みと共に、まちに愛着と誇りが醸成される状況を生みだしたい。

〇〇：・すみだ北斎美術館の勝手に応援団ということで紹介する。行政じゃできないこと、

地元にも理解を得られないことをやっている。ミズベリングと同じだが、ヨソ者、バカ者、ワカ者、女性、外人、学生をつかってやろうというソーシャルデザインである。

- 私の 100 年かけての妄想は川辺の倉庫みたいところが全部分館やギャラリーになったり、北斎をリスペクトする外国人が着物を着て絵を描いていたりと、というようなことを想像している。船で巡って、アートとまちめぐりができるようなことをイメージしている。
- 元々T シャツメーカーだが、北斎Tシャツが日本人より外国人に人気があることがわかった。北斎美術館の話を受け、つくるより育てるものだ、箱モノつくって終わりではない、などの話をしている間に関係することになった。
- ありがちなつまらない美術館にはしたくない。幸か不幸か墨田区はお金がないこともあり、私に関われることになった。
- 墨田区民はこんなものをつくって税金の無駄遣いだと思っているが、そうではないということを主張してきた。道後温泉（伊佐庭 如矢）、大原美術館（大原 孫三郎）など、当時は狂っていると言われた人が今では偉人である。笑う凡人になりたいか、狂っているけども将来あの人かっこいいと言われる人になりたいかと問いかけると、反応する人はいる。
- 残念ながら墨田区にそのような人はいない。だからソーシャルで粋な人を 1000 人集めよう、クラウドファンディングだ、ということで 100 年後を夢見て遊ぼうということを行っている。
- 具体には、1 日館長制度を作ったり（10 万円/日）、またお金のない人には 1 日学芸員・1 日芸術監督などで企画提案してもらったりしている。そのような柔らかい集合体が勝手に応援団である。
- 資金集めは、向島百花園の方式で行おうと考えている。百花園は株主制で、皆でお金出したが、株主が強くなり好きな花を植えたから百花園になった。北斎美術館も皆がお金を出したら、「金をだしているから好きなことさせろ」と言っている間に普通の美術館じゃないものをつくろうという作戦。
- 私が斬新で過激な夢を言った方が、他の方が発言し易くなるということで、私の夢、1 つ目は、「隅田北斎区」に改名しよう。2 つ目は、「首都高マラソン」「首都高サイクリング」の実施。
- 言うだけでは信憑性がないので、3 名、責任者を決めた。行政（行政の壁を取り除く）、クラウドファンディングの専門家、私（皆さんの知恵などを繋ぐ）。
- ミズベリング事務局に、川辺で何かを行う際に、なんでも相談できる「コンシェルジュ」がいると有難い。
- 宣伝だが明日女子会トークというものがある。残念ながら今日はほとんど女子がいない。女子がいないと失敗するのではないかと思う。半分以上は女子がいないといけない。
- ソーシャルデザイン、ミズベリングも参加型ムーブメントである。ハコモノではな

い。ムーブメントで 100 年後も面白いことやろうぜ、という呼びかけなので、北斎美術館、ミズベリングはそっくりだと思う。

〇〇：・女性の力は重要だというのは別のところでも感じた。ものを動かすには女性の感性・生命力が重要なので、この場にも 1/3 から半分くらいは女性がいてほしい。

〇〇：・大阪・光の饗宴 2014 パンフレットを話題提供として報告する。

- ・ 御堂筋のイルミネーションを大阪市の公園部局から年間 3 億円かけて行っていたが、予算縮小により、範囲も狭まっていた。現在、大阪市の観光部門に引き継がれ、5 年間で関西電力等色々なところから協賛金を集め、冬の風物詩となりつつある。

〇〇：・本日の会場となっているミラービル横の隅田川テラスの工事が完成し、浅草から神田川合流点まで川沿いを歩けるようになった。

- ・ 今まで河川管理者が照明をするということは原則なかったが、今後、テラスを夜間に利用していただくのに必要であろうということで、この区間では、プロトタイプとして間接照明の設置を行った。スカイツリー等のランドマークの邪魔にならないよう、5~10 ルクスぐらいの明るさで整備している。少し明るいところはモニュメントをスポット的に照らしている箇所。試行的に一部水面も照らしている。将来的には隅田川沿いに広げていきたい。
- ・ 6 月に地元の観光協会主催で隅田川水面の祭典が開催された。栈橋を臨時で設け、子供がボートを運転できるというイベントを実施された（補助員付き）。
- ・ また、隅田川のテラスは火事の心配もあり火気厳禁となっているが、今回、初めて管理型のバーベキューを許可した。予約制であったがすぐに予約でいっぱいになった。
- ・ また、水上バイクの全日本選手権も初めて開催された。今までは主に地方で行っていたということだが、浅草で開催すると、人も集まるし、スポンサーも付くということであった。
- ・ 都心の下町でカワセミがみられるということはあまり知られていないのではないか。場所は旧中川、亀戸中央公園の上流側。人工的に水位を低下させて川沿いを人が歩けるように整備している川である。営巣ブロックを設置した結果、4 月にカワセミが棲み、3 回ほど雛が孵り巣立った。
- ・ 今後の予定であるが、隅田川のオープンカフェで隅田川絶景 nite カルチャー候というイベントが今月 23 日から実施される。二天門のオープンカフェは売上の一部を協議会で積み立てる仕組みであるが、それと都の補助金を加えて、イベントを実施する。仮設ステージを設置しライブを行うなどのイベントを行う予定。
- ・ 目黒川イルミネーション紹介。開催場所は五反田駅と大崎駅の間。冬の桜というイメージでイルミネーションが実施される（11/21~12/25）。
- ・ 中目黒では、中目黒駅を挟み延長 500m 程度において、青の洞窟というイメージでイルミネーションが実施される。（11/23~12/25）

- ・隅田川を中心とした新たな水辺整備のあり方という報告書を2月に作成している。東京都のHPでダウンロードが可能となっている。

〇〇：・いろんな取組が実現して、大阪にも対抗できるようになってきた感じである。東京の強みは多様な水辺があるということ。

(4) 意見交換

〇〇：・広島の学会に行った際に泊まったホテルでは、川沿いのテラスで朝食をいただけるようになっていた。広島の「水辺のオープンカフェ」の定着を実感した。

- ・ミズベリング大阪会議に参加したが、維新派の演劇は感激した。やはり、文化があるというのは素晴らしく、それにより都市の体験も深まると感じた。都市が文化を育むことは大切なことである。

- ・6月に川辺を持つフランス西部の都市、9月にアメリカ東海岸の港湾の街を視察した。機会があれば報告させて頂きたい。また、10月には新潟市の信濃川沿いのやすらぎ堤で社会実験の一環でピクニックコンテストを行ったので、同じく次の機会があればご報告したい。

〇〇：・最近、逗子、浜松に行っているが林業の問題がある。木と川の関係はどう考え直すかという話がある。

- ・川と海は分けて考えられない。ミズベリングではそこをどう考えるのか。
- ・楽しくしたいが防災面も含めてどうするのかも情報が必要。
- ・規制緩和ではイベントが多くなる。河川は街の中ののんびりした場所であるべきだがそうでなくなる。賑わいを中心としたせわしない場所が一つできてしまうという感覚をもっている。街中ののんびり、川のあり方について、くらしとしての河口から上流までを考えて行くことも忘れてはならない。

〇〇：・我々の研究室では、山奥の方からどうやって木を切り出してヴェネツィアまで運んでいるかを調べている。それが、日本の秩父から木場までくるのと同じである。向こうでは川沿いにミュージアムができているようだが、日本でももっと森林から海までという思想は絶対に必要になる。また、静かなところと賑やかなところは両方必要である。

〇〇：・会議に参加させていただいたこともあって、水辺に対する意識が高まってきた。出張や旅行でも、今までは陸路中心に考えていたが、水辺で乗れる船は無いのか、ということに気になるようになった。徳島ではクルーズに乗ったり、広島でも宮島へクルーズで行ってきたりした。

- ・水上アクセスは結構あるが、意識して調べないと出てこない。そういう意味では、ミズベリングのHPは活性化しているので、情報をどんどん出して頂ければと思う。

〇〇：・岡山でイメージアリングというアートイベントに行ってきた。そこで「白鳥海へ

ゆく」という映像作品があり、すごく良かった。(白鳥のボートで1日かけて旭川を下り、瀬戸内海を目指すというもの。) それをみて、手を加えなくてもよいものができるんだなと感じた。

- ・ポートランドとの取組はすごくいいと思う。ポートランドの何が良いかを一言で言えば、田舎で自然であること。ポートランドと我々の街並との接点を考えると、「川がある」と感じた。都会の中での川という要素を入れ込むと、繋がりが出てくると感じた。
- ・地方には東京にはない非日常があり、地方のことは東京ではなかなかできない。しかし、川では「非日常」や「今までの発想と全然違うこと」があり得るかなと考える。

〇〇：・水辺には可能性が眠っている。ようやく可能性が開き始めたということ。

(5) その他

- ・全国水都ネットワーク事務局中村氏より、全国水都ネットワークの取組みについて紹介が行われた。

〇〇：・全国水都ネットワークは全国の水都10都市で構成され、現在まで2年間活動している。

- ・水辺を使う際には、法律の問題、河川管理者の思い、地域の理解、様々なスキームの調整を行う必要がある。そこで、ネットワークにより、お互いの事例を学びあい高め合う活動をしている。
- ・水都と言っても認知度は低い。各都市で魅力を高め合い、世界に日本の水都ブランドをアピールしていきたい。
- ・ミズベリングとは目指すことは同じであると思う。(連携提案参照)
- ・各都市には色々な船がある。一堂に会して水上パレードが出来たら面白いと思う。

〇〇：・一緒に是非ミズベリングの皆さんと一緒にやっていきましょう。

〇〇：・大阪では、パートナーズという組織、行政と利用者、財界(商工会)のタッグがうまく機能し始めていると印象を受けた。東京も企業・行政を含めて「組織」の話を始めた方がよい。オリンピックに向けてこのままで良いのかと強く思った。

〇〇：・本当にその通り。大阪商工会議所でも水辺都市の再生を大きな柱として、色々な方々がきて、水の都市大阪を再生するための研究をしている。東京はあまりやっていない。隅田川ルネサンスを3年やっているが、行政・観光協会は熱心だが、お金を持っていて水辺に物件を持っている方々への働きかけがなかなかできておらず、大阪との違いを感じる。これからだいたい動いていくとは思いますが、もっと財界全体などが東京で広い範囲で関心を持っていただける仕組み、組織化が必要だと思う。国交省でも是非そういうことを考えていただきたい。是非民間の方々の力にも頼りたいと思う。

以上

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」
 コメンテーターリスト

	氏名	所属	出欠
座長	じんない ひでのぶ 陣内 秀信	法政大学デザイン工学部建築学科教授	○
コメンテーター	いで げんいち 井出 玄一	一般社団法人ボート・ピープル・アソシエーション代表理事	○
〃	いとう かおり 伊藤 香織	東京理科大学理工学部建築学科准教授	○
〃	かない つかさ 金井 司	三井住友信託銀行株式会社理事・CSR担当部長	○
〃	きしい たかゆき 岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科教授	×
〃	くつな ひろき 忽那 裕樹	株式会社 E-design 代表取締役	○
〃	くめ のぶゆき 久米 信行	久米繊維工業株式会社取締役会長	○
〃	しむた のぶこ 紫 牟田 伸子	紫牟田伸子事務所代表	○
〃	たけうち ひろゆき 竹内 廣行	大阪府都市整備部長 (代理： ねら た ひろゆき 藁田 博行 河川環境課長)	○
〃	つじた まさひろ 辻田 昌弘	東京大学公共政策大学院特任教授	○
〃	とやま まさみち 遠山 正道	株式会社スマイルズ代表取締役社長	○
〃	なかじま たかし 中島 高志	東京都建設局河川部長 (代理： おかじょう たつき 岡上 樹 低地対策専門課長)	○